

ライオンズクエストと薬物乱用防止教育



2024年1月30日、333複合地区ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会主催で、『ライオンズクエストプログラムと薬物乱用防止教育の関連について学ぶ研修会』が開催されました。ライオンズクエスト認定講師2名がライオンズクエストプログラムを用いた薬物乱用防止教室の実践例や学校現場の生徒指導における薬物乱用

防止教育などについてお話ししました。研修会は、意見交換をしたりロールプレイをしたりしながら、「わかる」だけではなく「できる」ように体験していきました。研修会には、他複合地区のライオンズクラブメンバーもゲスト参加しました！

ライオンズクエストで学べること

薬物を使用する怖さを伝えるだけでなく、薬物に手を出さないようにするために必要なことは「自分を大切にすること」であり、「好ましい友人関係」や「家族との絆」も大切。「目標を持つこと」や「適切な意思決定」、「悪い誘いにノー」というスキル」も必要です。これはまさにライオンズクエストだとご紹介しました。また、ライオンズクエストには「健康と病気の予防」という単元があります。幼児から中高生まで、発達段階にあわせて自分の体と健康について考えていくこともお伝えしました。

薬物乱用防止教室・実践例

335D地区・加西ライオンズクラブの薬物乱用防止教室の取り組みをご紹介します。以前は誘いに対処する方法として、自分の言葉でできる方法で子どもたちが考えていました。現在はライオンズクエストの具体的なスキルを紹介し、子どもたちに考えてもらい練習して発表する、という流れに変更。どんな態度でどんな言葉で断ることがいいのかが、体験を通して学べる内容となりました。また、学んだことを標語にして校内に掲示する、という活動も取り入れているそうです。



フレッシュャーに対処する方法

フレッシュャーには、自分の中から出てくるものと、外からくるものがあります。フレッシュャーに直面したとき、それを正確に把握することは、その状況に対応するための重要な要素となります。ありがちなさまざまな状況において、自分の中からくるフレッシュャー？外からくるフレッシュャー？ということをグループで話し合いました。また、具体的な場面を想定して、フレッシュャーに対処して自分の意思を言葉で伝える練習も実施。「やってみると難しい」「練習してわかることがある」という声が聞かれました。



生徒指導の観点から考える

生徒指導では、子どもたちに対する声かけ・対話・称賛などを通した「個」と集団への働きかけ」が重要です。また、自己肯定感やコミュニケーション能力、課題解決力や協働性などを身につけ、社会の一員となるための教育が日常的に行われていることが大切です。子どもたちにとって、教員を含めた周囲の大人が頼れる存在であるかどうか、薬物乱用を未然に防ぐ大切な課題です。こうした日々の子どもたちへの関わりは、ライオンズクエストの目指すものと同じだとお話ししました。